

出演団体

金津流獅子躍 (岩手県)

金津流横浜獅子躍は2013年3月に金津流梁川獅子躍(岩手県指定無形民俗文化財)より横浜での伝承活動を認許され、五穀豊穡、悪霊退散、祖霊供養を祈願する芸能として伝承されてきました。踊りは八頭の獅子が「中立」と呼ばれるリーダーを中心に、それぞれが役割を分担し自ら太鼓を叩きながら唄い、躍ります。



金津流横浜獅子躍
14:30-

郡上踊り (岐阜県)

山紫水明の郡上八幡 水と踊りの城下町で400年余りに亘り唄い、踊り継がれてきた郡上踊りは「見る踊り」ではなく、「参加する踊り」と言われ、子供からお年寄りまで一緒に輪を広げて踊ります。特に盂蘭盆の8月13日から16日の四日間は徹夜で、八幡の熱い夏の夜を踊り明かします。



郡上踊り保存会
15:00-

龍踊り (長崎県)

長崎の伝統芸能の龍踊りは中国で五穀豊穡を祈る雨ごい神事。玉は太陽や月を表し、龍が玉を飲み雨雲を呼び、雨を降させます。300年前、唐人屋敷で旧正月に披露していた中国人に隣接する町の人々が習い「長崎くんち」で奉納されています。縦横無尽に玉を追う勇壮な舞です。東龍倶楽部は東京圏での活動が15年目。



東龍倶楽部
12:50-

アイヌ民族舞踊 (北海道)

アイヌ民族舞踊は、自然や動物、植物を表す動きを模した踊りが多数伝承され、儀式後の奉納踊り、宴の余興的な踊り等があります。また、儀式後の宴で始まるウコック(輪唱)、カムイ(神)を表す歌等、人間の生活や自然に密着したものが多くあります。AYNURUTOMTE(アイヌルトゥムテ)は道を照らすの意。



AYNURUTOMTE
13:50-

中野七頭舞 (岩手県)

中野七頭舞は岩手県岩泉町小本地区に伝わる芸能です。七種の道具で七つの踊りを踊ります。冷害で作物が採れず多くの民が命を落とした天保の時代に、豊作を願い神楽のいい所を組み合わせたのが七頭舞と言われていました。毎年現地で中野七頭舞保存会と交流し指導を受けながら、関東で活動しています。



中野七頭舞 関東愛好会
13:20-

長崎獅子舞 (東京都)

元禄年間から伝承される豊島区の民俗芸能。漆黒の地鳥の羽を背に負った木彫りの獅子頭をかぶり、腹に太鼓をつけた三頭の獅子が舞う長崎獅子舞は、大都会で伝承する獅子舞として貴重な存在です。旧長崎村の人々が現在の長崎神社に集い、五穀豊穡、悪疫災厄退散、病氣平癒を祈り獅子舞を演じました。



長崎獅子連
11:05-

与那国棒踊り (沖縄県)

与那国島の棒踊りは290年前、首里から伝わり、役人の抑圧の厳しい島で、「棒術」ではなく「踊り」であると役人の目を眩まし、琉球弧内で唯一の「棒踊り」として継承されてきました。東京で継承されてきた2005年結成。「ティンバイ(弁慶と牛若丸)」「イララ(鎌)六尺棒」「三尺イビ(子供)棒」を披露します。



与那国島青年部
12:25-

西馬音内盆踊り (秋田県)

秋田県羽後町西馬音内地区に伝わる伝統行事。700年以上先祖代々受継がれ、五穀豊穡を願う豊年踊り、落城した城主の慰霊の踊りといわれています。編み笠に絹の端切れを縫い合わせた端縫い衣装の踊り手と「彦三頭巾」と呼ばれる黒い頭巾に藍染めの浴衣姿の踊り手が顔を隠して踊ります。



西馬音内盆踊り 愛好会
18:15-

おわら風の盆 (富山県)

300年の歴史ある伝統芸能。富山県八尾町で歌い継がれている民謡「越中おわら節」の旋律にのせて深夜踊り手が踊り流す「おわら風の盆」。三味線、胡弓、太鼓と囃しの響きにのせて法被(半纏)の農作業姿の踊り手、艶やかで大人びた浴衣姿の踊り手が妖艶に舞います。



越中おわら節同好会
高尾会
17:40-

阿波踊り (徳島県)

徳島県(旧・阿波国)を発祥とする盆踊り。日本三大盆踊りや四国三大祭りの代表的な存在であり、約400年の歴史を持ちます。新粋連は、1995年東京都豊島区南大塚を拠点に発足。2016年には、徳島県「全国阿波おどりコンテスト」で優勝。三味線と笛の旋律に乗せて、男踊りと女踊りが優雅に舞う構成には定評があります。



新粋連
17:00-

エイサー (沖縄県)

沖縄では旧盆の夜、各地域の青年会が先祖の霊を供養しながら地域内を踊り練り歩きます。中野新道エイサーは沖縄出身者が集う東京の中野で生まれました。民謡だけでなく古典も取り入れ、ゆったりとした曲調の演舞と、観ている方々と一緒に踊る輪踊りの特徴としています。



中野新道エイサー
11:45-

トーク・セッション

高橋亜弓【仔鹿ネット】

武蔵野美術大学卒。研究者でも伝承者でもない一人の視点から郷土芸能を伝える「仔鹿ネット」の企画・運営のほか、訪日外国人向けのガイドツアーやイベント造成を行う。国際剛踊師。愛してやまない郷土芸能と日本酒を軸に、国内外の人々を巻き込み、発信しながら、日本の地域文化を見聞き・感じ・味わい・学ぶ日々を送る。

当真嗣光【イベントディレクター】

沖縄県出身。カメラマンとしてタイ、フィリピン、韓国の取材を行う。舞踏やエイサーを通して身体性に興味を持ち、日本の伝統芸能にも関心を広げる。徐々に企画する側へと移行し、アンバサドやチャランケ祭など様々な祭の立ち上げに共同参画するようになる。

司会・進行

宮城整【構成・監修】

沖縄県出身。東京のエイサー団体で活動後、日本やアジアの踊りを取り入れた楽団「群星」(むりぶし)を結成。NHK「にほんごであそぼ」にエイサー太鼓で出演。また台湾先住民の文化継承イベントに参加するなど、国内外の民俗舞踊に興味を持ち、何よりも踊ることを楽しんでいる。近年は民俗舞踊講座の企画・講師で活躍している。

マット・ギラン

英国出身。幼い頃からピアノを弾き始める。1995年に初来日し、日本の伝統音楽に興味をもつ。2000年より琉球古典音楽を学び、2001年より石垣に住み、八重山古典民謡を学ぶ。2004～7年沖縄県立芸術大学に所属し、琉球列島各地方の歌を調査する。2007年より東京に移住。現在は国際基督教大学教授(音楽)。2008年に沖縄タイムス芸能祭グランプリ受賞(歌三線)。

吉田布

東京生まれ東京育ちの西馬音内盆踊りの若き踊り手。地元秋田県羽後町出身の母と年間を通して様々な場所で踊っている。西馬音内盆踊りを生活の一部として感じ、すばらしい芸能が身近にあることに感謝して日々を暮らす。また日本の伝統芸能を少しでも多くの方に身近に感じ、触れて楽しんで欲しいと願っている。

